# Red Hat Enterprise Linux 上の Unified Manager をアップグレードする

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/install-linux/concept_upgrade_unified_manager_on_rhel.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次


Red Hat Enterprise Linux 上の Unified Manager をアップグレードする . . . . . 1
Red Hat Enterprise Linux 上の Active IQ Unified Manager をアップグレードする . . . . . 1
Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください . . . . . 1
Active IQ Unified Manager のアップグレード . . . . . 2
パッケージが不足している場合の追加手順 . . . . . 3
Active IQ Unified Manager のために Red Hat Enterprise Linux ホスト OS をアップグレードする . . . . . 4

# Red Hat Enterprise Linux 上の Unified Manager をアップグレードする

## Red Hat Enterprise Linux 上の Active IQ Unified Manager をアップグレードする

新しいバージョンが利用可能になったら、Unified Managerをアップグレードできます。

Unified Managerソフトウェアのパッチ リリースがNetAppから提供されたときは、新規リリースと同じ手順でインストールします。

Unified ManagerをOnCommand Workflow Automationのインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、2つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後にWorkflow Automationの接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後にWorkflow Automationにログインし、Unified Managerからデータを取得していることを確認します。

## Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください

Active IQ Unified Managerでサポートされるアップグレード パスはバージョンごとに異なります。

すべてのバージョンのUnified Managerで、新しいバージョンへのインプレース アップグレードを実行できるわけではありません。Unified Managerのアップグレードは、N-2モデルに限定されています。つまり、すべてのプラットフォームにおいて、次の2つのリリースへのアップグレードしか実行できないということです。例えば、Unified Manager 9.14および9.16からUnified Manager 9.18へのアップグレードのみ可能です。

サポート対象よりも前のバージョンを実行している場合は、Unified Managerインスタンスをサポート対象のいずれかのバージョンにアップグレードしてから、最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

たとえば、現在Unified Manager 9.9がインストールされていて、Unified Manager 9.14にアップグレードする場合、アップグレード手順は次のようになります。

アップグレード パスの例：

1. 9.11から9.13にアップグレードします。
2. 9.13から9.14にアップグレードします。
3. 9.13から9.16にアップグレードします。
4. 9.14または9.16 → 9.18へのアップグレード

アップグレードパスマトリックスの詳細については、こちら "ナレッジベース（KB）記事"を参照してください。

# Active IQ Unified Manager のアップグレード

LinuxプラットフォームでUnified Manager 9.14または9.16から9.18にアップグレードするには、インストール ファイルをダウンロードして実行します。

開始する前に

- Unified Managerをアップグレードするシステムがシステム要件とソフトウェア要件を満たしている必要があります。

  "ハードウェアシステム要件"を参照してください。

  "Linuxソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

- Red Hat Enterprise Linux Subscription Managerへの登録が必要です。
- Unified Managerをアップグレードする前に、適切なバージョンのOpenJDKをインストールするか、または適切なバージョンにアップグレードする必要があります。

  "LinuxでのJREのアップグレード"を参照してください。

- Unified Managerをアップグレードする前に、7-zipの適切なバージョンをインストールまたはアップグレードする必要があります。"7-zipソフトウェアパッケージを設定する"を参照してください。
- データ損失を防ぐため、アップグレード中に問題が発生した場合に備えて、Unified Managerデータベースのバックアップを作成しておく必要があります。NetAppでは、バックアップファイルを`/opt/netapp/data`ディレクトリから外部の場所に移動することをお勧めします。
- アップグレードの実行中に、パフォーマンス データの保持期間について、以前のデフォルト設定である13カ月のままにするか6カ月に変更するかを確認するプロンプトが表示されることがあります。変更を確認すると、6カ月を過ぎた過去のパフォーマンス データはパージされます。
- アップグレード プロセスの実行中はUnified Managerを使用できなくなるため、実行中の処理がある場合は完了しておいてください。
- MySQL Community Editionは、Unified Managerのアップグレード時に自動的にアップグレードされます。システムにインストールされているMySQLのバージョンが8.4.10より前の場合は、Unified Managerのアップグレード プロセスによって8.4.10に自動的にアップグレードされます。

手順

1. ターゲットのRed Hat Enterprise Linuxサーバにログインします。
2. サーバにUnified Managerのバンドルをダウンロードします。

   "Linux 用 Unified Manager のダウンロード"を参照してください。

3. ダウンロードしたディレクトリに移動し、Unified Managerのバンドルを展開します。

   ```
   unzip ActiveIQUnifiedManager-<version>.zip
   ```

   Unified Managerに必要なRPMモジュールがターゲット ディレクトリに解凍されます。

4. ディレクトリに次のモジュールが展開されたことを確認します。

   ```
   ls *.rpm
   ```

```
netapp-um<version>.x86_64.rpm
```

5. インストール前スクリプトを実行して、アップグレードと競合するシステム設定やインストール済みソフトウェアがないことを確認します。

   ```
   sudo ./pre_install_check.sh
   ```

   インストール前スクリプトは、システムに有効なRed Hat Enterprise Linuxサブスクリプションが存在すること、およびシステムが必要なソフトウェア リポジトリにアクセスできることをチェックします。問題が検出された場合は、修正してからアップグレードに進む必要があります。

   不足しているパッケージが検出された場合は、"パッケージが不足している場合の追加手順"に記載されている手順を実行してください。不足しているパッケージがない場合は、次の手順に進んでください。

6. 次のスクリプトを使用してUnified Managerをアップグレードします。

   ```
   upgrade.sh
   ```

   このスクリプトは、RPMモジュールを自動的に実行し、必要なサポートソフトウェアと、それらの上で動作するUnified Managerモジュールをアップグレードします。さらに、アップグレードスクリプトは、アップグレードと競合する可能性のあるシステム構成設定やインストール済みのソフトウェアがないかどうかも確認します。スクリプトが何らかの問題を検出した場合は、Unified Managerをアップグレードする前に、その問題を修正する必要があります。Unified Managerをアップグレードする前に_net-snmp_などのパッケージをインストールしていた場合、MySQLの依存関係により、アップグレード中にパッケージがアンインストールされる可能性があります。引き続き使用するには、パッケージを手動で再度インストールする必要があります。

7. アップグレードが完了したら、メッセージを上にスクロールして、Unified Manager Web UIのIPアドレスまたはURL、メンテナンス ユーザの名前（umadmin）、およびデフォルトのパスワードを確認します。

   メッセージは次のようになります。

   ```
   Active IQ Unified Manager upgraded successfully.
   Use a web browser and one of the following URLs to access the Unified
   Manager GUI:

   https://default_ip_address/     (if using IPv4)
   https://[default_ip_address]/   (if using IPv6)
   https://fully_qualified_domain_name/
   ```

サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウに、表示されたIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、前に設定したメンテナンス ユーザの名前（umadmin）とパスワードを使用してログインします。

## パッケージが不足している場合の追加手順

アップグレード中にサイトでパッケージが不足していることが検出された場合、システムがインターネットに接続されていない場合、またはRed Hat Enterprise Linuxのリポジトリを使用していない場合は、次の手順に従って、必要なパッケージが揃っているかどうかを調べ、足りないパッケージをダウンロードします。

これらの手順は、メイン手順のステップ_5_の後に実行する必要があります。この手順を実行するとUnified Managerがアップグレードされます。アップグレードのために追加の手順を実行する必要はありません。

1. 各パッケージについてその有無を表示します。

   ```
   yum install netapp-um<version>.x86_64.rpm --assumeno
   ```

   「Installing:」セクションの項目は現在のディレクトリで利用可能なパッケージであり、「Installing for dependencies:」セクションの項目はシステムに不足しているパッケージです。

2. インターネットにアクセス可能な別のシステムで、次のコマンドを実行して不足しているパッケージをダウンロードします。

   ```
   yum install package_name --downloadonly --downloaddir=.
   ```

   パッケージは、`--downloaddir=`として指定されたディレクトリにダウンロードされます。

   Red Hat Enterprise Linuxシステムでは、プラグイン「yum-plugin-downloadonly」が常に有効になっているとは限らないため、パッケージをインストールせずにダウンロードする機能を有効にする必要がある場合があります：

   ```
   yum install yum-plugin-downloadonly
   ```

3. インストール先システムのUnified Managerのバンドルを解凍したディレクトリに、ダウンロードしたパッケージをコピーします。
4. 前述のディレクトリに移動し、次のコマンドを実行して、不足しているパッケージとその依存関係をインストールします。

   ```
   yum install *.rpm
   ```

5. Unified Managerサーバを起動します。次のコマンドを実行します。

   ```
   systemctl start ocie
   ```

   ```
   systemctl start ocieau
   ```

これで、Unified Managerのアップグレード プロセスは完了です。サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウに、表示されたIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、前に設定したメンテナンス ユーザの名前（umadmin）とパスワードを使用してログインします。

# Active IQ Unified Manager のために Red Hat Enterprise Linux ホスト OS をアップグレードする

Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linux 7.xシステムを Red Hat Enterprise Linux 8.xにアップグレードする必要がある場合は、このトピックに記載されているいずれかの手順に従う必要があります。いずれの場合も、Red Hat Enterprise Linux 7.xでUnified Managerのバックアップを作成し、そのバックアップをRed Hat

Enterprise Linux 8.xシステムにリストアする必要があります。サポートされるRed Hat Enterprise Linuxのバージョンは8.0～8.10です。

ここに記載する2つの方法の違いは、Unified Managerのリストア処理を新しい8.xサーバで実行するか同じサーバで実行するかです。

この作業では、Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムでUnified Managerのバックアップを作成する必要があるため、Unified Managerがオフラインになる時間が最小限になるように、アップグレード プロセス全体を実行する準備ができてからバックアップを作成します。Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムをシャットダウンしたあと、新しいRed Hat Enterprise Linux 8.xシステムが起動するまではデータが収集されないため、その間のデータはUnified Manager UIに表示されません。

バックアップとリストアのプロセスの詳細な手順を確認する必要がある場合は、"バックアップとリストア処理の管理"を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 8.xソフトウェアをインストールできるスペア システムがあり、Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムが稼働している間にスペア システムでUnified Managerのリストアを実行できる場合は、次の手順に従います。

1. 新しいサーバにRed Hat Enterprise Linux 8.xソフトウェアをインストールして設定します。

   "Linuxソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

2. Red Hat Enterprise Linux 8.xシステムに、既存のRed Hat Enterprise Linux 7.xシステムと同じバージョンのUnified Managerソフトウェアをインストールします。

   "LinuxへのUnified Managerのインストール"を参照してください。

   インストールが完了しても、UIを起動したり、クラスタ、ユーザ、または認証設定を設定したりしないでください。これらの情報は、リストア プロセスでバックアップ ファイルから取り込みます。

3. Red Hat Enterprise Linux 7.x システムでは、Web UI の 「管理」 メニューから Unified Manager のバックアップを作成し、バックアップファイル（(.7z`ファイル）とデータベースリポジトリディレクトリの内容（(/database-dumps-repo`サブディレクトリ）を外部の場所にコピーします。
4. Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムで、Unified Managerをシャットダウンします。
5. Red Hat Enterprise Linux 8.xシステムで、バックアップ ファイル（(`.7z`ファイル）を外部の場所から `/opt/netapp/data/ocum-backup/`にコピーし、データベース リポジトリ ファイルを `/ocum-backup`ディレクトリの下の `/database-dumps-repo`サブディレクトリにコピーします。
6. 次のコマンドを入力してバックアップ ファイルからUnified Managerデータベースをリストアします。

   ```
   um backup restore -f /opt/netapp/data/ocum-backup/<backup_file_name>
   ```

7. WebブラウザにIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、システムにログインします。

システムが正常に動作していることを確認したら、Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムからUnified Managerを削除できます。

同一サーバー上のホスト**OS**のアップグレード

Red Hat Enterprise Linux 8.xソフトウェアをインストールできるスペア システムがない場合は、次の手順に従

います。

1. Web UI の管理メニューから Unified Manager のバックアップを作成し、バックアップファイル (`.7z` ファイル）とデータベースリポジトリディレクトリの内容 (`/database-dumps-repo` サブディレクトリ）を外部の場所にコピーします。
2. システムからRed Hat Enterprise Linux 7.xイメージを削除し、システムを完全に消去します。
3. 同じシステムにRed Hat Enterprise Linux 8.xソフトウェアをインストールして設定します。

   "Linuxソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

4. Red Hat Enterprise Linux 8.xシステムに、前のRed Hat Enterprise Linux 7.xシステムと同じバージョンのUnified Managerソフトウェアをインストールします。

   "LinuxへのUnified Managerのインストール"を参照してください。

   インストールが完了しても、UIを起動したり、クラスタ、ユーザ、または認証設定を設定したりしないでください。これらの情報は、リストア プロセスでバックアップ ファイルから取り込みます。

5. バックアップ ファイル（(`.7z` ファイル）を外部の場所から `/opt/netapp/data/ocum-backup/`にコピーし、データベース リポジトリ ファイルを `/ocum-backup`ディレクトリの下の `/database-dumps-repo`サブディレクトリにコピーします。
6. 次のコマンドを入力してバックアップ ファイルからUnified Managerデータベースをリストアします。

   ```
   um backup restore -f /opt/netapp/data/ocum-backup/<backup_file_name>
   ```

7. WebブラウザにIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、システムにログインします。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。